

新年のご挨拶

一般財団法人 日本航空協会 会長 植木 義晴



新年あけましておめでとうございます。

日本航空協会を代表し、令和8年の新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、アメリカではトランプ政権が発足し、国内では高市内閣が誕生して国内外の情勢に大きな変化が起きましたが、長期化しているウクライナ侵攻を初めとする国際情勢の懸念の多くは残ったままとなりました。しかし、AIをはじめとするデジタル技術の進化、スポーツでの日本選手の活躍、大阪・関西万博の未来志向の取り組み、そして日本人2名のノーベル賞受賞など、希望を感じる話題も多くありました。

このような状況の中で、航空宇宙はさまざまな技術革新をもとにサービスの充実・向上に繋がる未来への道筋を切り拓いていく使命を担っており、当協会は定款に定める「航空宇宙思想の普及」「航空宇宙文化の醸成」「航空宇宙技術の向上」を使命に全力を尽くしてまいります。

本年は世界初の火星圏への往還（火星衛星からのサンブルリターン）を目指す「火星衛星探査計画（MMX）」の始動が予定されており、当協会の航空宇宙思想普及活動を通じて、このJAXA主導の国際宇宙プロジェクトへの国民の関心を高め、航空宇宙文化の醸成に力強くつなげてまいります。

昨年、航空遺産継承事業では、新たに2件の重要航空遺産の認定を行いましたが、これからも日本の航空文化を未来へ繋ぐ責務をしっかりと果たします。文化情報事業でも講演会や航空図書館を通してより一層の航空宇宙思想の普及に努めます。また、次世代宇宙航空人材の育成に貢献するべく関係団体・企業と2025年夏に共催して好評をいただいた「夏休み航空宇宙教室」を、今年も開催する予定です。

航空スポーツ事業では関係先との連携を確実に行うことで多くの競技会やイベントの開催に大きく貢献しました。昨年10月にはフィンランドで開催された国際航空連盟（FAI）総会において、世界の仲間たちと交流し、航空スポーツの発展に向けて情報交換を行いました。

航空スポーツの安全確保は特に喫緊の課題であり、安全意識向上のための啓発活動を一層強化し、航空スポーツ統括団体と連携を深め、安全・安心な環境の実現を目指します。

他にも航空会館テナント・貸会議室事業、そして受託事業である国際線発着調整事務局業務など、航空宇宙関係に関わるステークホルダーの皆様との緊密な連携により確実にその役割を果たしていく所存です。

さて、ご存知の方も多いと存じますが航空会館屋上には航空神社が鎮座しており、私は同神社の奉贊会会長を務めております。昨年秋には新たなお守りと御朱印帳を作成いたしました。皆さまの航空平安祈願のご参拝をお待ち申し上げます。

最後になりましたが、本年も当協会の事業に対し、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。皆様方と航空宇宙業界のさらなるご発展と多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。